



NCAの時間に、普通科の1年次生が、探究活動の成果を発表しました。

普通科

4月から、普通科の1年次生が総合的な探究の時間(本校では、「NCA」と呼んでいます。)で取り組んできた探究活動の成果を披露する発表会を10月11日(水)に開催しました。社会の困りごとを自分の課題として捉え、生徒一人ひとりが将来のビジョンを考えながら課題解決に取り組むこの探究活動では、5月中旬から、課題を解決するためのじぶん株式会社の企画書づくりに取り組みました。企画書の作成に当たっては、モチベーションレビューシートの作成や他己紹介により、これまでの自分を振り返る自己認知にも挑戦しました。

普通科1年次生が挑戦した探究活動の内容等

回	開催月日	内容
1	4月26日	社会の変化や地域の魅力、企業の情報をもとにして、これからの生き方について語る。
2	5月10日	本校の若手同窓生から見た、下関の「困りごと」を探究する。
3	5月24日	将来のビジョンや生き方、しごとを探るため、他己紹介や過去を振り返る「モチベーションレビューシート」を作成することにより、自己認知に挑戦する。
4	6月7日	将来、自分が何に貢献できるのか考え、これを実現するための事業の企画書を作成する。
5	9月27日	グローバル社会で、リーダーとしてどんな環境でも、どんな相手でも価値を創出できる人材とは？
6	10月11日	一人ひとりがグローバルリーダーになるための企画書を作り、発表によりアウトプットする。(2時間)

最終回となったこのたびのNCAの時間では、じぶん株式会社の企画書を発展させ、自分自身がグローバル社会で活躍するプロジェクトをつくりました。そしてプロジェクトを動かすリーダーとなるために、これからの高校生活で、どのようなことに取り組んでいかなければならないかをまとめました。8人のグループに分かれて探究活動の成果を共有し、最も優れたプロジェクトをつかった生徒が、グループの代表に選ばれました。グループの代表として発表した生徒は、「身近なことの中に、何か一つでも自分がリーダーとなって行うことを見つけていかなければならない。」や「これまで受け継がれてきた日本の素晴らしい伝統文化を守るため、後継者の育成や観光資源化の推進が必要である。そしてこの活動を日本の未来につなげたいと考えた。」「グローバル人材は、メンバー一人ひとりを理解し、組織をつくりあることができる人材であることがわかった。」等を発表しました。このたびは、生徒一人ひとりが将来グローバル社会で活躍する姿を想像し、高校生活の目標を定めることができました。目標をしっかりと持ち、これからの学校生活を充実させてくれることを期待します。



自身がグローバルに活躍するため、高校生としてこれから努力することを発表!

グローバル人材について、考えをまとめる生徒

1年次生を対象とした、キャリアセミナーを実施しました。

普通科

探究科

11月17日(金)に、本校のOBやOGの方々等10人をお迎えし、1年次のすべての生徒を対象としたキャリアセミナーを実施しました。キャリアセミナーは、本校生徒に将来の職業を見据えた進路決定を促すため、様々な職業で活躍されている方々に講座を開講していただき、職業の特徴やその職業に就くためにどのような進路を選択すればよいのかについて学ぶためのものです。このたびは、弁護士、銀行員、公務員、建築、大学教員(工学)、エンジニア(土木)、カウンセラー、医師、作業療法士、薬剤師のみなさまに御来校いただき、それぞれ講座を担当していただきました。生徒は、これらの講座から、興味・関心があるものを2つ選び、お話を聞くことができました。1年次生は、文理選択が大詰めとなり、これからそれぞれの夢の実現に向けて前進します。このたびいただいたお話をしっかりと理解し、これからの進路選択や学習に生かしてください。

探究科の2年次生が、第46回日本分子生物学会年会高校生研究発表に出場!

探究科

第46回日本分子生物学会年会に併せて実施された高校生研究発表が、12月2日(土)に開催され、探究科の2年次生15人が参加しました。日本でも有数の規模を誇る日本分子生物学会が実施した発表会は、分子生物学や生命科学の次世代を担う高校生と大学や研究機関に所属する学会の研究者との交流を目的としています。オンラインで開催

されたこのたびは、温度等の条件を変えながら、パラミロンの生成を観察した生物1班

研究班	研究テーマ
生物1	ユーグレナのパラミロンの含有量と環境との関係性
生物2	身近な微生物を用いた生ごみの効率的な分解に関する研究
家庭	二酸化炭素を吸収する布を作る



納豆菌や乳酸菌を用いて生ごみを分解した結果を報告する生物2班



藻類を用いて、二酸化炭素を吸収する布を作製した家庭班

このたびは、温度等の条件を変えながら、パラミロンの生成を観察した生物1班の発表会には、13校から17演題の発表があり、この中にはAshbury College(カナダのボーディングスクール)の高校生による発表もありました。本校から出場した3つの研究班は、4月から取り組んできた課題研究の成果を4分間で説明し、大学や研究機関の先生方から質問や助言をいただくことができました。探究科の2年次生は、1月25日(木)に発展探究校内発表会を迎えます。残された時間は少なくなりましたが、このたびいただいた助言を生かし、より一層研究を深めてくれることを期待します。

探究科の3年次生が、第18回「科学の芽」賞に出品しました。

探究科

探究科3年次の表に示した9つの研究班が、2年次の発展探究の授業に取り組んだ課題研究の成果をまとめた論文を朝永振一郎記念第18回「科学の芽」賞に出品しました。筑波大学が主催する「科学の芽」賞は、筑波大学の前身である東京教育大学の学長を務められたノーベル賞受賞者朝永振一郎先生が、子どもたちに向けた色紙に残された「ふしぎだともうこと、これが科学の芽です」から名づけられました。今年度の「科学の芽」賞には、日本国内の小・中・高等学校に加え海外の日本人学校からも出品があり、2,210作品がエントリーされました。このうち、高等学校部門には292作品が出品されていました。本校から出品した9作品は、残念ながら入賞(29位以内)にはとどきませんでした。朝永先生が残された色紙には、先ほどの言葉に続き、「よく観察してたしかめそして考えること

朝永振一郎記念第18回「科学の芽」賞に出品した研究班と研究テーマ等

研究班	研究テーマ
数 学	1/f ゆらぎの短期における記憶力への効果
物理1	ボウリングで100%スベアをとる方法
物理2	磁歪式振動発電を用いた雨滴発電
化学1	竹酢液によるアンモニアの消臭
化学2	カイロを変える!!~資源循環につながるカイロを作る~
生物1	コオロギの捕食者に対する反応
生物2	ワラジムシって土壌回復に役立つの?~ワラジムシと小松菜の成長の関係~
保健体育	片方の手の握力を鍛えると、もう片方の手の握力も上がる?
家 庭	いでよ神龍!仙豆で世界の飢餓をなくしたまえ!



朝永振一郎記念第18回「科学の芽」賞に出品した探究科の3年次生

これが科学の茎です。そうしてさいごになぞが解ける。これが科学の花です」と記されています。これからも疑問に挑戦し続け、花を咲かせることができるよう、努力しましょう。

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。